

# 日本看護歴史学会 会報

日本看護歴史学会  
第20号  
1995年2月20日

## 阪神大震災発生の中で

依田和美

戦後五〇年の一九九五年の幕開けは、大変な大震災に始まった。一月一七日午前五時四六分、兵庫県南部を中心とした阪神地方に大地震が起った。兵庫県西宮市の私の家でも、夜明け前の浅い眠りの中で突然突き上げられるようなたてゆれを感じ、すぐ後に激しい横ゆれがつづいた。私の頭上に鏡台が倒れてきた。隣の部屋では本棚の倒れる物凄い音がした。一瞬何が起ったのか分からないままに起き上がり鏡台をもとに戻した。冬の夜明けはおそい。真つ暗闇の中で電灯をつけようとしたが、すでに停電していた。懐中電灯で照らし出された部屋はまるでオモチ

ヤ箱をひっくり返したような有様であった。手探りでラジオのスイッチを入れると、兵庫県南部を中心にマグニチュード七・二の直下型地震が発生したことを知らせていた。その後は連日報道されたように、各地で火災や山崩れが発生し、死者五千人を超える戦後最大の震災となった。東海地震の予報は随分以前から盛んに警告されているので、東京に就職させている娘にはいざという時の注意などをしていたが、阪神に住む私達は北海道や三陸沖の地震のニュースにもよそ事のように思い、地震に対して物心両面の備えを殆どしていない有様であっ

た。災害は忘れた頃にやってくると言われる通り、今回も行政当局はもちろんのこと、被災を受けた市民の多くも、突然のことに瞬時なすすべを知らないという状況ではなかったかと想像する。歴史上まれにみる、人生に一度というような事柄に遭遇した時、私達は何を指針に行動すればよいのでしょうか。この度の大地震に遭遇して、あらためて地震災害の歴史を振り返り、過去の人たちがどのように対処し、どのような教訓を残しているかを真摯に学ばねばならないと痛感した。一九九一年一〇月発行の本会々報の中で、吉川龍子氏が一九九一年に起こった濃尾大地震の際、日本で開始されたばかりの看護教育を受けた看護婦たちが救護に活躍したことを報告している。この時の救護活動が我が国における看護婦による救護活動の始まりであり、百年余りを経て、今阪神地方の被災地では医師とともに保健婦、看護婦たちが救護活動にあたっている。看護史をふりかえる時、戦争や災害時の死傷者の救護における看護職の果たしてきた役割の大きいことを知る。

最近、にわかには日本列島の地殻変動が活発化し、今回のような大地震が日本どこで発生してもおかしくない状況である。看護職としては、ぜひこの機会に今後の震災に備えて看護職による組織的な救護活動が行えるよう議論を始めなければならぬ。過去を知ることにより、今によく対処でき、将来に備えることができる。日本看護歴史学会としては、戦後五〇年にあたる今年には、戦後の看護の歩みを各方面から振り返る重要な年であるが、それに加えて看護職による震災時救護活動の歴史をたどり、またこの度の震災の惨状と看護の活動などを記録にとどめることも大切であると思う。最後に被災を受けられた会員の皆様に心よりお見舞い申し上げます。

**阪神大震災の被災地の皆様に謹んでお見舞い申し上げます**  
尚、緊急の幹事連絡会により、被災地区の本会会員の皆様に対し一九九五年度の会費免除と、お見舞を実施することに決定しました。

## 第九回日本看護歴史学会大会予告

### 「戦後五〇年 看護改革の行方」

一九九五年に第二次世界大戦が終結してから、今年で五〇年。様々な領域で、この節目にあたる年に再評価しようという気運が高まっています。

あたかもこのときにあつて、先月一七日未明に発生した阪神大震災の惨状に対し、異口同音に「まるで戦火の跡のようだ」という多くの声は、故なしとは思えないものでした。

さて、今年の大会は、敗戦後GHQ(連合軍総司令部)によってなされた看護改革と、その後をめぐり、検証することにいたしました。当時、直接的に看護改革に当られた方々からの貴重な発言を期待したいと思います。

#### ◆開催日程

八月五日(土) 午後一時半開始  
八月六日(日) 午前九時半開始

#### ◆会場

ウイングス・京都(京都市女性総合センター)イベント・ホール  
京都市中京区東洞院六角通下ル  
〇七五―二二―七四七〇(代)

#### ◆第一日目 午後一時受付開始

午後一時半 メイン行事

「私のかかわった戦後の看護改革」

元厚生省看護課長・日本看護協会

会長 金子 光氏

元厚生省看護課・日本看護協会

長 大森文子氏

午後四時半 総会

#### ◆第二日目 午前九時受付開始

午前九時 研究発表

午前一〇時半 分科会

昼休・懇親会を予定

午後一時半

「私のかかわった

地方の看護改革(仮)」

該当者を招いての談話を予定

開催内容および時間等については、次回会報で詳しく紹介いたしますので、お早目に予定をお立て下さい。

#### ◆分科会について

分科会担当 五十嵐 節

分科会については、創刊号から十九号に至るまで毎号何らかの記事があります。分科会活動については、会報2号、3号、5号、8号、12号に、特にお知らせをしておりますが、近頃入会された方もありますので左記に趣旨と概略を述べます。

趣旨は、会員が自分と共通の関心分野の人々と交流を深めながら相互に啓発し、継続的に学習や研究内容を深めて行こうとするものです。

分科会の方針と趣旨を具体化したものは次のとおりです。

一、会員は自分の関心分野の分科会に主体的に参加し、継続的に学習や研究を行う。

一、大会は、研究報告、研究発表を行い、幅広い意見交換や、交流をはかる場とする。

一、分科会の構成人員は問わず、一人一分科会も設立しうる。

一、各分科会の代表者は、その会のメンバーの互選により選出される。(会報第二号より引用)

会員の関心分野は

文字・映像にみる看護、生活文化と看護、女性史、宗教と看護、看護思想史、近代看護史、ナイチンゲール、日赤の看護、現代看護史、看護制度史、GHQ、各国史、公衆衛生史、助産・助産婦の歴史、小児看護史、精神看護史、教育方法史、看護士の歴史、臨床看護史、社会と看護、法制史、その他などがあります。

今年は、戦後五〇年、看護改革も叫ばれ五〇年、看護の改革の行方を見失わないよう、それぞれの歴史のなかでしっかり見据えていきたいものと期待し分科会を盛り上げていただきたいと願っております。そしてここからまた看護歴史研究にと、つなげていってくださることを切にお願いいたします。

#### ◆第九回大会分科会

##### 話題提供者の募集

1 内容 研究テーマ  
要旨・呼びかけ(百字以内)

2 期日 六月末日

3 送付先

350-04 埼玉県入間郡毛呂山町  
毛呂本郷三八  
埼玉医科大学短期大学  
五十嵐 節

## 災害史としての「地震」

亀山 美知子

今回の大地震は龐大な被害をもたらし、今も被災者の方々の苦痛にははかり知れないものがあり、あらためて自然の前では非力な人間の存在を認識せざるを得ない。

ここで先人たちの地震への対処を振り返ることも何らかの教訓を私たちに与えるものではないだろうか。そこで、江戸期の地震のうち、元禄一六年（一七〇三）の関東を中心とする大地震について紹介しよう。尚、引用はすべて原文通り。

○十一月廿二日この夜大地震にて。郭内石垣所々くづれ。櫓多門あまたたをれ。諸大名はじめ士庶の家。数をつくし転倒す。また相模。安房。上総のあたりは海水わきあがり。人家頽崩し。火もえ出で。人畜命を亡ふ者。数ふるにいとまあらず。誠に慶安二年このかたの地震なりとぞ。甲府邸これがために長屋たふれ。火もえ出しかば。増火消を命ぜらる。御所には護持院大僧正召れて夜中まうのぼり。鎮護の加持し奉る。○廿三日けふも地震なをやまず。○廿五日紀伊本

邸こたびの災にかゝりしかば。しばし鶴姫君を西城の大奥にうつしまいらす。各所破損の地修理奉行を秋元但馬守喬邦。大島伊勢守義也。普請奉行甲斐庄喜右衛門正永。

水野権十郎忠順。小普請奉行布施長門守に命ぜられ。御宮。靈廟の修理を阿部豊後守正武。少老井上大和守正岑。小普請奉行間宮諸左衛門信明に仰付られる。また先手頭佐野与八郎政信は火賊考察。使番松田善右衛門勝広は日光山巡察奉る。又、弥火を警べしと仰出さる。また地震に屋舎そこねし輩休暇たまふ。日数は火に逢し時の半たるべしと定めらる。○廿六日火災の時。指揮を待す速に出て火を防べきむね。脇坂淡路守安照はじめ。六人の輩に伝らる。又火災しげく風烈しき時は。巡番の輩郭辺しげしげ見回るべし。定役の外増役をも令ずべしと仰出さる。又令せられしは。強き地震には。番所ならびに同公の席あくるともくるしからず。近きわたりの庭へ。はゞかりなく出べし。このうへおもひたがへ。座席にありて毀傷せば。己があやまちたるべしなり。またこのごろ火災しげく。風もはげしければ。廻り番の輩。場所をこたりにく巡察し。御所近辺もしばしば廻るべし。定廻の外。増廻りをも

命ずべしとなり。○廿七日こたびの大変により。伊勢大神宮。京二一社。当府山王。神田明神。相模国鶴岡八幡宮（中略）其外大社大寺に祈禱を仰下さる。又各郭石壘破壊により。火災等の時出て警衛すべきむね。酒井左衛門尉忠真神原式部大輔政邦（中略）に仰付らる。○廿八日月次拝賀なし。大災によりてなり。郭辺石垣修理の人夫出す事を。松平大膳大夫吉広。藤堂大学頭高睦（中略）に仰付らる。大久保隠岐守忠増小田原の居城地震にて大破しければ。就封のいとま給ふ。霊雲寺恵光地震祈禱の事仰付られ。不動秘法廿一座行ふ。○廿九日勘定奉行萩原近江守重秀こたび各所の事沙汰すべしと命ぜらる。各所御修理の仮奉行を小姓組服部久右衛門常方。桑山源七郎一規（中略）に仰付らる。大久保隠岐守忠増居城大破により。金一万五千兩かしたまふ。けふ小石川水戸邸より。失火しけるに。風はげしく。八重姫御方の第邸より。本郷の方にやけ行て。甲府の別業より東叡の山中にうつり。寮舎若干焼て。湯島天満宮。神田明神（中略）両国橋。大橋も焼落。本所。深川靈巖寺のほとりまでやけぬ。よて水戸邸より。八重姫君は本城にうつり給ふ（中略）この

月令せらゝは。こたび火災により。諸商売物はいふまでもなし。諸士。傭夫。大八車等の賃銭。其他のものも。価騰貴せしむべからずとなり。○十二月朔日拝賀なし。家門昨日の大火により。使奉行御けしきうかがはる。○（中略）また松平加賀守綱紀。若狭守吉徳（中略）災にかゝりしをもて。をのをの御使してとはせ給ふ。書院番大久保甚右衛門忠位破損所の仮奉行を奉る。○（中略）○二日藤堂大学頭高睦災にあひしもて。石垣の助役を松平右衛門督吉泰に命ぜらる。○けふ令せらるゝは、こたびの火事。地震にて。屋舎破壊し。あるは焼亡せし輩。営築。修理等。この頃は匠工もさしつかゆれば。速に営築するに及ばず。たとへならせらるゝ道なりともくるしからざれば。先板橋をなしをき。追々に営築すべしとなり。○三日寄合小笠原民部長宥（中略）蔵有院殿靈廟の勤番（中略）けふより護持院大僧正隆光仁王経を講す。（中略）この日火をいましむる事。心いるべきむね令せらる。はた失火のとき。白刃あらはして。武器もせるものも見ゆれば。前令のごとく。弥さることあるべからずと令せらる。○五日地震により。代官を箱根山に遣はし巡察せしめらる。この日目付の

輩へ令せらるゝは。宮築により城中へ人夫多く入れれば、暮に及び退くとき。のこるものあらんもはかりがたければ(中略)宿直の目付兩人。徒目付つれて。夜中ししばしばまはり。翌朝其旨聞えあぐべしとなり。(中略)また来申年烟草の事を令せらる。(中略)下馬所其他僕従等あつまる地にて。下人烟草用ゆべからずと。主人より堅く令すべし。(中略)九日(中略)衣服其他今より後華美にすべからず。音信。贈遺。料理等にいたるまでかろくすべし。さきさき令せられしごとく。火をいましむる事心いれしむべし。もし火おこらば。力を尽しすみやかに打けし。尤近隣よりも馳集り。大火に及ばしむべからず。火災の地見せしむると。騎馬のもの出すべからず。火災のとき。昼夜にかぎらず。各門各橋。往来滞らしむべからず。はた所在の橋際へ。雑具をくべからずと。あらかじめ告諭すべしとなり。○十日ことし早して久しく雨ふらず。地震火災うちつゞけば。護持院大僧正奉り。けふより水天供を修す。(中略)○廿三日令せらるゝには。(中略)歳暮歳首。すべて慶事の贈遺こと更かろくすべし。魚物は鯛。鱸にかぎらず。何魚ともかろく取かはし。(中略)衣服は

有来りたるべし。小給の輩は。熨斗目あるは定紋の服着せずともくしからず(中略)風烈のときは他出せず。たとへ年礼たりといふも出べからず(中略)○廿九日さし十一月大地震の後。このごろに至り。毎日数十度の地震ありて猶やまずとぞ。(略)国史大系第43巻「常憲院殿実紀卷四十八」

江戸時代の大地震は、慶安二年の関東地域、延宝四年津和野大地震、宝永四年の富士山の噴火にともなう地震、文化一年の出羽国の大地震により名勝象潟の異変等々を数えている。幕府による地震に関する記事の中でも、今回取り上げた元禄一六年のものが、最も詳細に当時の状況を伝えている。

これによれば、次第に事態の細部にわたる情報を得るに至り、相次いで対応策を講じている。特徴的なものとして、加持祈禱を重視している点であろう。だが、地震後七日目に至り、水戸藩邸よりの出火により、江戸の半分が焼失するという事態が起きる。これを発端に、火災防止策は徹底される一方、江府内の秩序維持にも多角的に施策を講じたことが分る。中でも経済政策としての儉約令等、きめ細かい注意を行っている。余震の記事も興味深いものである。

### 事務局だより

◆新入会員紹介(敬称略)  
宮中文字 602 上京区清和院口寺町  
東入ル中御霊町四一〇 京都府立  
医大医療技術短期大学部  
鎌田美智子 653 神戸市長田区海運  
町七―四―一三  
兵庫県立総合衛生学院

◆会費未納の方々へお願い  
現在、本会々員総数は増加しているにもかかわらず、会の運営費は約四〇万の残額があるに過ぎません。滞納されている方は、至急未納額を振込んで下さい。

郵便振替口座  
〇一〇一〇一―一五二一八五  
日本看護歴史学会

日本看護歴史学会会報第二〇号  
編集責任者 亀山美知子  
発行責任者 玄田公子・岡山寧子  
602 上京区清和院口寺町東入ル府立  
医大医療技術短期大学部  
日本看護歴史学会事務局  
260 千葉市中央区亥鼻一―八一―一  
千葉大学看護学部  
看護実践研究指導センター  
鶴沢陽子 気付  
〇四三―一二六―二四五六

## 看護学における唯一の大辞典・6年ぶりの大改訂

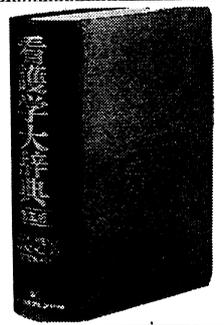
# 看護学大辞典

第四版

監修 ● 内蘭耕二・小坂樹徳  
● A5判 ● 2,574頁 ● 上製函入 ● 定価14,000円(税込)  
独自の「看護学十進分類表」が語彙検索、  
臨床、研究をサポートします。

好評発売中

- 新語彙 1,700 語を加えた豊富な語彙数 31,000 語を収録。
- 基礎医学・臨床医学の他、関連諸科学も最新の知見を満載。



メヂカルフレンド社 〒102 東京都千代田区九段北3-2-4 ☎ 03(3263)7666 FAX.03(3261)6602